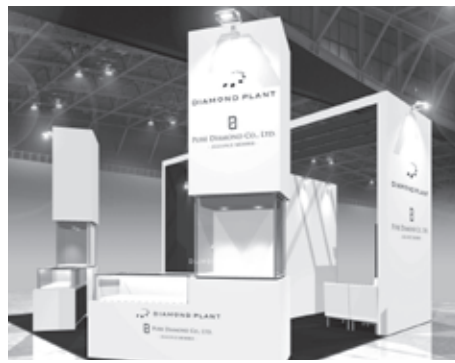


「100% Made in Japan」が可能に
秋のIJTで概要を説明

日本初のラボ・グロウンダイヤモンドの生産プロジェクトがスタート

秋のIJT(10月23日-25日)で概要を説明

日本初の宝飾用ラボ・グロウンダイヤモンドの生産プロジェクトがスタートし、秋のIJT(10月23日-25日)で概要を説明



日本初の宝飾用ラボ・グロウンダイヤモンドの生産プロジェクトがスタートし、秋のIJT(10月23日-25日)で概要を説明

プロジェクトを実施するのは(株)ダイヤモンドプラント(大浦達也代表)

ダイヤモンドプラントは、主にCVDダイヤモンドの研究開発、生産を進

め、日本発のダイヤモンドブランドを目指している企業。

AIテクノロジーを活用した信頼性の高い鑑定や、デジタルによる原産地と加工地の証明など、他の生産者との差別化を図り、国内需要だけでなく輸出産業としてのダイヤモンド生産を目指すことを掲げている。

また、日本のジュエリーメーカーによるデザイン、生産によって、ダイヤモンド原石から製品に至るまで、「100% Made in Japan」のダイヤモンドジュエリーという高付加価値による海外展開を図ることも視野に入れている。

パシフィコ横浜のIJT秋では、同プロジェクトの概要の説明が開けると共に、(株)ビューダイヤモンドが世界中のトップ生産者から買い付けた高品質なラボ・グロウンダイヤモンドが展示されることから、世界のトップレベルの生産者によるラボ・グロウンダイヤモンドに実際に触れることができるブースとなること(ブースNo. 13-27)。

字の太さを自在に変えられる
万年筆ペン先をモンブランが開発



筆記具ブランドとして長い伝統を誇るモンブランは、カリグラフィーの芸術性をさらなる境地へと高める新作「マイスターシュテック カリグラフィーコレクション」を発売。まったく新しいペン先のイノベーションに注目が集まっている。

「カリグラフィー」-calligraphyとは、古代ギリシャ語の「美しい筆記-beautiful writing-」を語源とする言葉。それは、手書きによって生み出される文字やテキストを優雅な芸術へと高めるための技巧であり、何世紀も前の様々な文明や大陸に起源を発している。今日では、創造的でパーソナライズされた方法で手書きをしたいという愛好家の間に広まっている。芸術的な手書き文字を会得するには、スキル、忍耐力、そして練習を必要とするが、なによりも適切なツールが不可欠となる。

すべてのモンブラン万年筆のまさしく魂であるペン先(ニブ)には、高度で熟練したクラフツマンシップが惜しげもなく注ぎ込まれてきた。ペン先は、35もの工程とそれを監督する熟練した職人によって、ソリッドゴールドから手作業で彫り出され、専門知識と直感によって、ひとつひとつ丁寧に形作られていく。

「カリグラフィー コレクション」には、モンブランのペン先作りのノウハウを集めた「フレキシブルニブ」が搭載された。やわらかいゴールドは、しなやかに曲がりやすく広がりやすいため、ペンにかかると圧力に応じて字の太さがわずかに0.3mmから1.4mmまで変化し、より精巧で表現力豊かなカリグラフィーを実現。画期的な新機構のメカニズムの誕生だ。

モンブランは、名高いマイスターシュテック イエローゴールド149に、この様々な筆記スタイルを可能にする「フレキシブルニブ」を搭載した新作を発表した。ラインの細さとペン先の特殊な幾何学的形状が、様々なライティングスタイルを実現。昔ながらの堂々たるボディの持ち心地はそのままに、ニュアンス豊かな書体を実現する「フレキシブルニブ」で全く新しい「書くこと」や「描くこと」の楽しさを堪能することができる。

習を必要とするが、なによりも適切なツールが不可欠となる。

すべてのモンブラン万年筆のまさしく魂であるペン先(ニブ)には、高度で熟練したクラフツマンシップが惜しげもなく注ぎ込まれてきた。ペン先は、35もの工程とそれを監督する熟練した職人によって、ソリッドゴールドから手作業で彫り出され、専門知識と直感によって、ひとつひとつ丁寧に形作られていく。

「カリグラフィー コレクション」には、モンブランのペン先作りのノウハウを集めた「フレキシブルニブ」が搭載された。やわらかいゴールドは、しなやかに曲がりやすく広がりやすいため、ペンにかかると圧力に応じて字の太さがわずかに0.3mmから1.4mmまで変化し、より精巧で表現力豊かなカリグラフィーを実現。画期的な新機構のメカニズムの誕生だ。

モンブランは、名高いマイスターシュテック イエローゴールド149に、この様々な筆記スタイルを可能にする「フレキシブルニブ」を搭載した新作を発表した。ラインの細さとペン先の特殊な幾何学的形状が、様々なライティングスタイルを実現。昔ながらの堂々たるボディの持ち心地はそのままに、ニュアンス豊かな書体を実現する「フレキシブルニブ」で全く新しい「書くこと」や「描くこと」の楽しさを堪能することができる。

家庭用永久磁石磁気治療器
ULTRA Neo
PAT. Japan-USA China CPC

金具のないネックレス
簡単に着脱できるマグネット式にして、留め金を無くしました。多彩なカラーと素材展開で、どんなスタイルにも対応できます。

<http://www.sunchalaine.com>

株式会社 サン・シャレーヌ



PIA JEWELRYが仕掛けた
押切もえさんのジュエリーが話題
技術力を生かしたバゲットカットの魅力

10月10日、アフリカダイヤモンド六本木ヒルズ店で、初めてプロデュース&デザインしたジュエリー「Luminallure(ルミナリール)」の発売記念会見を行い、指輪5点、ペンダントなど総額100万円相当の輝くジュエリーを身につけて登場。「日本の材料を使い、日本の職人さんの技



石・貴金属の企画開発・製造・卸販売を行うPIA JEWELRY(山梨県甲府市、名取邦雄社長)。

同社は、平成8年の創業当時から加工技術の難しいバゲットカットダイヤモンドや「プリンセスカットダイヤモンド」などを使用した新

術が生きているところ、今の私の気持ち、ジュエリーへの憧れを詰め込みました」などと話し、TVやネットニュースで話題となった。

押切さんは、「私にとってジュエリーは、昔からたくさんの憧れが詰まった特別なもの。おもちゃの指輪が欲しくて仕方がなかったこと。母親が出かける際にパールイヤリングをつける、その仕草に憧れて、母がいない時にそっと鏡の前で真似したこと。社会に出て初めて、一粒ダイヤが入ったジュエリーを購入した日のこと」など、たくさんの思い出も語った。

デザインするにあたって一番意識したことは、「普段のカジュアルな日から、いつもとは違う自分を演出したい時まで、様々なシーンで長い間愛せるジュエリーをつくりたい」ということ。押切

なジュエリーの創造に挑戦し続け、現在では、加工技術力、価格、デザインともにトップクラスの実力が認められ、国内外から注目されている企業。

「ルミナリール」も、押切さんの洗練されたデザインと共に、同社の培ってきた匠の技術、そして美しく上質なダイヤモンドの世界が楽しめるバゲットカットが多く使用されたブランドとなっている。

んは「自由に、いろんなシチュエーションで、あなたらしく身につけてください」と付け加えた。

「ルミナリール」を仕掛けたのは、国内トップレベルのCADシステムでスピーディに精密かつハイクオリティ、低コストの製品作成を行い、売上を伸ばしている宝

第2回「うさぎクラブ」
交流会を開催

ジュエリー業界の活性化を目指し、業者の連携を図る

10月25日、御徒町/19時30分スタート

日本のジュエリー業界活性化を目指し、全国のジュエリーメーカー、卸、小売業者の垣根を越えた情報交換、交流を通して、連携の創出を図るだけでなく、この厳しい宝飾市場を刺激し、市場拡大を図るための新たなビジネスの方向性を模索していくことを目的とし、り5回の年会費(食事代)5万円を合わせた6万円の振込をお願いします(振込先:りそな銀行船場支店/当座0505005/丸善)。

年会費においては、飲食を兼ねた交流会の飲食代となっております。締め切りは10月21日。

お問い合わせや質問は、うさぎクラブ事務局(株丸善内)06-6251-2611までお願いします。

既に会員にはメールで案内が送ら



第18回ピクシスの会
創作ジュエリー展

総勢36名が出品

11月13日~17日 大黒屋ギャラリー

日本宝飾クラフト学院の生徒や講師が2年に1度開催する創作ジュエリー展「ピクシスの会」(主宰:大場よう子)が、11月13日~17日の5日間、東京・銀座の大黒屋ギャラリー7階で開催される。時間は11時~18時(最終日は16時)。

18回を数える今回のテーマは「ベジタブル」。総勢36名の会員一人ひとりが思い思いのオリジナル作品を出品する。作品販売コーナーも設置される。

防犯監視カメラの世界は健全か
「逃亡者」の視点から

「日本の刑法犯認知数は戦後最悪だった2002年の約285万件から急速に改善し、2015年には110万件を下回って42年ぶりに戦後最少記録を更新した。その要因は、防犯カメラの普及にあると言われている。(賀来泉 社会を変えよう)。

防犯カメラの威力は絶大である。最近も都内で犯罪を起こした容疑者が逃亡の末湘南のホテルで逮捕されたが、それは防犯カメラの追跡の結果、宿泊のホテルまで特定された為である。通り魔や

ひったくりの類の犯罪は、少し前までは犯人の特定や検挙にかなりの労力を要し、それでもなかなか捕まらなかつたことを思えば防犯カメラは治安の維持に役立っていることは言うまでもない。

江戸の夜にごめく盗賊どもを長谷川平蔵が一網打尽にしたごとく、令和の平蔵ともいべき防犯カメラの監視の目はすこぶる優秀である。

けれどもこの防犯カメラについていささかなりとも知ろうとすると事は容易ではない。日本全国でどの程度の数が設置され、首都圏を含め大都市圏内と地方ではカメラの設置密度はどの程度なのか、カメラに映し出されたデータはいつまで保存されているのか、だれが管理しているのか、警察を含めた治安当局はカメラの設置、データの収集に直接関与しているのか、市町村、JRなどの行政や公共機関による設置はどの程度広がっているのか、カメラ自体の性能は初発よりもどの程度向上してきているのか、最新のバージョンはどれ程のことが成し得るのか、思いついただけでも知りたい事は多くあ

れど、情報としては多分開示されていないであろう。誰に聞いていっても分からない。いや仮に私が自分の街の防犯カメラについてでも知ろうと市役所や警察に問い合わせればそれだけで不審者扱いをされかねない。つまり防犯カメラは、その情報が秘されていることで威力を発揮するものだから、関係者以外には明らかにならないように仕組みられていることである。この在り様は、ある意味とても怖いことでカメラの仕様が加速度的に高度化すればするほど我々は気付かないうちに格段と、そして徹底して管理されてしまっていることになりかねない。いやもうそうになっているのだから管理の巧妙さが圧倒感を感じさせないのである。

だからもし自分が何かのいきさつで追われる身になった時にはどうすればカメラの監視を振り切れるだろうか。電車と地下鉄をランダムに利用してもおそらく行動軌跡は把握されてしまうはずだ。

山の中のキャンプ場で女兒が行方不明になった事件(事故)の捜索状況から考えればあの辺りにはカメラが設置されて

いないことは分かる。事件から防犯カメラの在り様を事前に判断しておくことだ。そのうえで逃亡するならば、山中に潜り込み、日を置いて登山者に紛れて下山するのが現在の時点では一つの方法かもしれない。

かくほどに優秀であればあるほど防犯カメラが政治的に利用されるリスクも大きい。戦前の治安維持法は目に見える直接的、強圧的な政治的弾圧の手法であったが、現在では権力がその気になればいくらでもカメラを使った治安維持が可能なのである。誤解のないように付け加えておくと、自民党政権がという意味ではない。どの政権になろうとも権力を握ったものはという意味である。主催者である国民が防犯監視カメラによって日々安全な生活を営むことが出来ることはありがたいことだが、そのカメラの情報が開示されて国民がカメラの運用を監視できなければ、空恐ろしい社会が現れることも心しておかざるならない。

貧骨
cosmoloop.22k@nifty.com

美しさ。だけしか要らない。
Eco-Drive One

世界最薄1.00mmのムーブメントを内包した光発電時計。

AR5025-08E 400,000円+税
*アナログ式光発電時計として、2018年3月現在、シチズン時計調べ。
シチズン時計株式会社 <http://citizen.jp>

CITIZEN
BETTER STARTS NOW